

「新語」

2015年7月18日(土)

会場：ラニカイテラス (南青山)

参加：16名

司会・文責：野田

1. 概要：

- ・新語のでき方や受け入れられ方を通じて、言葉によってどういう影響を受けるかについて主に議論しました。

2. お題の説明

- ・新語のうち、すぐに廃ってしまう流行語を除く言葉を切り口に、言葉との向き合い方について考えます。

3. 新語のでき方

- ・新しいモノに対する新しい名前。生まれたての赤ちゃんに対する新しい名前のような。
- ・「勿体ない」がアフリカに渡ってアフリカの活動家マータイさんにより「Mottainai」として日本に逆輸入された時に、新しい意味が付与された。新しい意味、新しい見かけを獲得するものも新語と呼べる。身近なことばが目線の高いものになった。外国には勿体ないという気持ちがあったが、それに対応するいい言葉がなかったので、Mottainaiが広まった。
- ・新しい世界観であって、世界に広めたいもの、世界を良い方向に変えようとするものには、対応する新語が必要である。
- ・役に立つもの、要望があるものに対応して新語が作られる。
- ・省略して、短く言うということも新語の一種である。
- ・プロが作ったものと、自然発生的にできたものがある。
- ・サムライジャパンのように、元々の使い方と違う使い方をすることで古い言葉に新しいニュアンスを加えるタイプの新語がある。
- ・「がん見する」、のように、面白さを求めることで出来る新語がある。古くからあったモノに新しい価値を見出している。
- ・クリーンスタッフ、デモンストレータなど、昔からある職業に対する新語が多数ある。カタカナになることで印象が良くなる。古いモノに対する新しい名前である。感覚的である。
- ・新語が出来たコミュニティから出て、一般に定着すると新語である。

4. 新語をどう受け入れるか、どういう影響があるか

- ・新語を初めて聞く時、新語の背景に集団を感じる。
- ・新語を使えない、理解できないことに不安を感じる。
- ・新語を使うと、その集団に仲間入りする感じがする。
- ・コミュニティ内で使われる新語により、コミュニティをメンバーが確認する。
- ・新語が受け入れられるとき、その新語がどういう状況で、どういう意味で使われるか答えられないような人でも使う。言葉そのものが大事であって、同じ服を皆が着るようなものである。
- ・相手に通じると、仲間意識が出来る。
- ・新語を知った場所では新語を使うが、新語が使われていない場所では使わない。例えば、ネットで流通する新語をネットで使うが、リアル（身近な人との対面での会話）では使わない。
- ・最新のものを皆で共有したいという願望がある。
- ・新語はカッコいいが、皆が使うとカッコ悪くなり、死語になる。
- ・新しい言葉を知っていることで、優越感がある。

5. まとめ：

- ・毎日使う言葉ですが、考える機会はなかなかないと思います。新語を切り口に、言葉と、言葉が対応するモノ、言葉が含有する意味、言葉が使われる集団や場、言葉の持つ影響について考察しました。

以上